

## 環境放射線だより

## — 環境放射能調査結果のお知らせ —

2023年7月～9月の調査結果から、県内原子力発電所に起因する環境安全評価\*上問題となる影響は認められませんでした。監視項目ごとの結果を以下に示します。

なお、結果の詳細については、当センターのホームページに掲載する「原子力発電所周辺の環境放射能調査（2023年度第2四半期報告書）」をご覧ください。

\*：環境安全評価

環境における原子力施設からの放射線および放射能による線量が、一般公衆の年線量限度（1ミリシーベルト/年）を十分に下回っていることを安全評価上の判断基準としています。

当センターのホームページ



## 監視目的

原子力発電所周辺の放射線・放射能の監視は、福井県と原子力施設設置者からなる「福井県環境放射能測定技術会議」が行っています。監視の基本目標は、地域のみならず健康と環境の安全を守ることです。

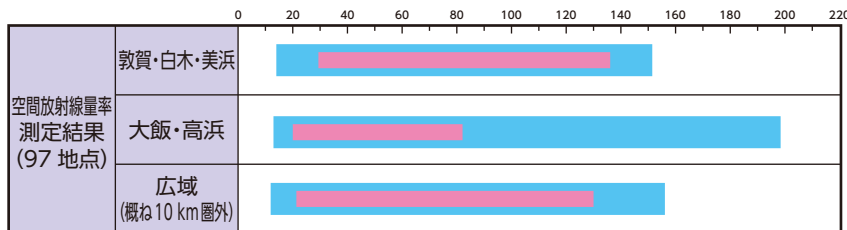
そのために、空間放射線の時間変化（空間放射線量率）および積算の量（積算線量）、ならびに環境試料中の放射能濃度を測定し、安全性を確認しています。

## 01 空間放射線

原子力発電所周辺環境の放射線調査結果について、空間放射線量率と積算線量に分けて下図に示します。地区によって値に差があるのは、地質の違いにより土に含まれる天然放射能の量が異なるためです。

## ① 空間放射線量率（1時間当たりの放射線量）

調査の結果、県内の原子力発電所に起因する線量率の上昇は観測されませんでした。

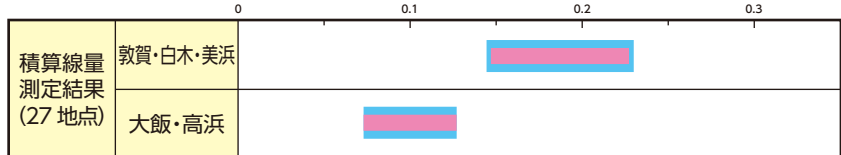


単位：nGy/h

## ② 積算線量（3ヶ月間の放射線量）

調査の結果、県内の原子力発電所に起因する積算線量の増加は観測されませんでした。

なお、2021年度に調査地点の再配置を行っており、一部地点を除き過去実績は2021年度、2022年度の2ヶ年のみとなっています。



単位：mGy/92日

## 緊急時のモニタリング体制

原子力発電所で大きな事故が発生し、放射性物質の異常な放出や、そのおそれがある場合、事故の状況やモニタリングの結果をもとに、様々な防護対策がとられます。

モニタリングにあたっては、国、福井県、周辺府県、原子力事業者、専門機関で構成する「緊急時モニタリングセンター」を組織して、これら関係機関が連携して緊急時モニタリングを行います。

また、平常時には、原子力総合防災訓練のほか、緊急時モニタリングに特化した活動訓練を行い、実施体制の確立、技術の習熟に努めています。



【緊急時モニタリング活動訓練】

## グラフの見方

- ：今期の測定結果の範囲（最低～最高）を示します。
- ：2018年度から2022年度までの測定範囲（最低～最高）を示します。

## 単位の説明

Gy（グレイ）：物質が放射線を受けて吸収したエネルギーの量を表す単位  
Sv（シーベルト）：人体が放射線を受けたときの影響の度合いを表す単位（通常、1 Gy=約1 Sv）

Bq（ベクレル）：放射能の強さを表す単位

m（ミリ）：千分の1の記号

μ（マイクロ）：百万分の1の記号

n（ナノ）：十億分の1の記号

# 02 環境試料中の放射能

今期実施した環境試料中の放射能調査結果のうち、主な人工放射性核種の濃度を下図に示します。

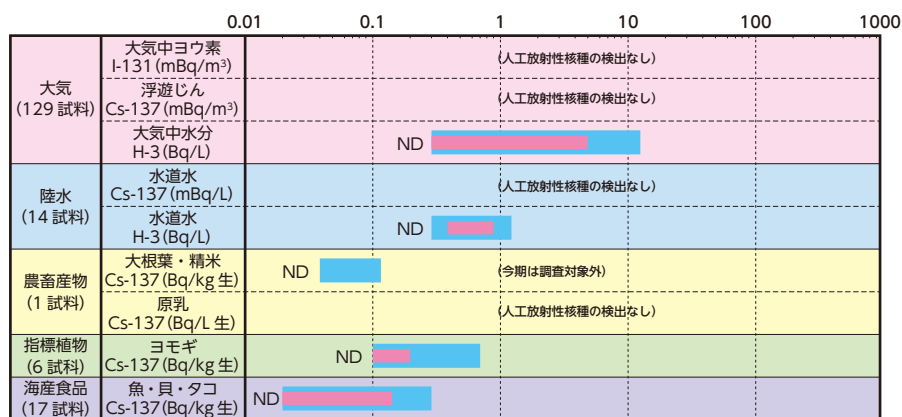
一部の試料から人工ガンマ線放出核種が検出されましたが、過去の大気圏内核実験フォールアウトによる影響によるものと考えられます。

また、多くの試料でトリチウム (H-3) が検出されていますが、H-3 は宇宙線による生成や過去の大気圏内核実験影響のほか、原子力発電所からの管理放出の影響によってほぼ常時検出される核種です。

今期の放射能調査結果からは、県内原子力発電所に起因する環境安全評価上問題となる影響は認められませんでした。

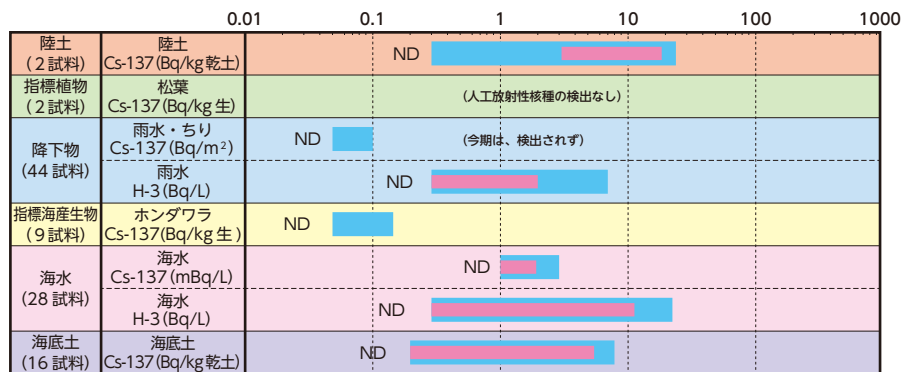
## ① 周辺住民等の被ばく線量の推定および評価

- ・指標植物および海産食品の一部の試料からセシウム -137(Cs-137) が検出されましたが、環境安全評価上問題となるレベルに比べ、はるかに低い濃度でした。
- ・大気中水分の一部の試料から県内原子力発電所の放射性廃棄物管理放出に伴う H-3 が検出されましたが、環境安全評価上問題となるレベルに比べ、はるかに低い濃度でした。



## ② 蓄積状況の把握・予期しない放出の早期検出および周辺環境への影響評価

- ・陸土、海水および海底土の一部の試料から Cs-137 が検出されましたが、これまでの検出実績と比べて特に大きな変動は認められませんでした。
- ・海水の一部の試料から県内原子力発電所の放射性廃棄物管理放出に伴う H-3 が検出されましたが、これまでの検出実績と比べて特に大きな変動は認められませんでした。



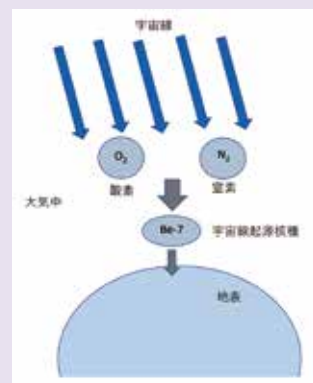
### 宇宙線起源核種

宇宙空間には、高いエネルギーを持った放射線が飛び交っており宇宙線と呼ばれています。宇宙線は高度が高くなるほど強く、飛行機が飛ぶ高度約 10km では地上の約 100 倍の強さになります。

高高度では地球に降り注ぐ宇宙線が大気中の酸素や窒素といった様々な原子核と反応し、放射性核種が日々生成されています。このように宇宙線により生成された核種を宇宙線起源核種と言います。

生成される主な核種には、トリチウム (H-3)、ベリリウム 7(Be-7)、炭素 14(C-14)、ナトリウム 22(Na-22) 等があります。

これらの核種は、高高度で生成されますが大気中のちりや雨水中に含まれて地表に降ってくるため、環境放射線モニタリング調査でも検出されています。



### グラフの見方

- (Pink bar) : 今期の測定結果の範囲 (最低～最高) を示します。
- (Blue bar) : 2018 年度から 2022 年度までの測定範囲 (最低～最高) を示します。
- ND (検出されず) : 測定の検出限界値未満を示します。